



## D 術中

- 動脈圧、スワンガンツカテーテル、経食道エコー、末梢輸血ライン、心電図（胸部誘導の V5 を含む）、指尖脈波・酸素飽和度などを術中モニターとする。
- OFF-PUMP 冠動脈バイパス手術の場合は手術室に人工心肺装置をスタンバイし、回路と人工肺など人工心肺使用に必要なものは、すべて梱包のまま手術室内かそばに設置する。
- IABP は手術前日に使用が可能なことを確認し適正なバルーンカテーテルとともに、スタンバイしておく。
- 手術中、ライブ手術コーディネーターの 2 名は手術室に居てライブ中継の他、手術中のあらゆる問題に責任を持って対応する。
- 手術中に不測の事態が発生した場合は、会場参加者に報告してライブ中継を中断し、手術コーディネーターも加わり、事態の解決のために迅速に対応する。この経過は家族および施設開設者に逐一報告する。
- 手術室での不測の事態が生命に拘る事故につながった場合は、院内コーディネーターが事故発生から対応までの経過ならびに結果をカルテに詳細に記載し、同じ内容のものを当該施設管理者、当該研究会代表世話人に速やかに提出する。
- 事故発生から 1 週間以内に当該研究会の代表世話人および安全実施審査会委員が中心となって手術医療安全委員会を召集する。同委員会は関連学会に内容詳細を報告し、院内事故調査委員会に協力する。

## E 術後

- 手術後 1 ヶ月経過した時点で術者と当該心臓血管外科責任者は連名署名でライブ心臓手術報告書を当該研究会世話人および安全実施委員会と当該施設開設者に提出する。内容は手術記録、麻酔記録、術後経過、大小合併症、退院日などである。
- 手術後 6 ヶ月から 12 ヶ月を経過した時点で経過報告書を当該心臓血管外科責任者名で署名の後当該研究会世話人と当該施設開設者に提出する。特に冠動脈 CT 検査、カテーテル検査、再手術、カテーテル治療については詳細に記載する。
- 1 年後、次回研究会が開催された際には術者あるいは当該心臓血管外科責任者がライブ手術患者の 1 年間の経過と検査結果を参加者に報告する。